

「家も職場も地震で壊れてしまった。これからどうなるのか不安です・・・」

20日、いぬい・徳増市議と「生健会」役員が避難所(流山福祉会館)にお見舞い、要望をお聞きしました。

20日のお昼に、いぬい、徳増市議と妹尾会長を先頭に生健会の役員、東葛病院の戸倉直美医師が、市内で唯一つの避難所(流山福祉会館)を訪ね、福島県から避難している方たちをお見舞い、ご要望を伺いました。

現在、福島県から30数名の方が避難しています。流山市は、畳の部屋、お風呂、毛布を提供、食事などは自前です。訪問した時は、家族でカップラーメンを食べていました。いぬい市議らは、3つの家族からお話を聞きました。

いわき市から避難。両親と姉・妹夫婦、子どもたちの大家族

いわき市から避難しているAさん一家は、娘さんたちの家族も含め10人をこえる大家族です。昨夜から熱が出ている子どもさんの様子を戸倉医師がみました。炊事の設備がないため、お湯を沸かすことしかできません。春休みの子どものたちの4月から学校はどうなるのか心配していました。

南相馬市から避難。夫婦と3人の子ども、母親は妊娠中

南相馬市から避難しているBさん一家は、奥さんが妊娠中です。南相馬市の家も職場も壊れて、住むところも働くところありません。首都圏には身よりもなく心細い。手元のお金も少なく、働かなくてはと先行きを心配していました。

徳増市議らは、さっそく週明けにもいっしょに生活保護を申請しましょうと励ましました。

いわき市から避難。夫婦と娘さん家族、妹さん

生後まもない赤ちゃんをつれて避難してきたCさん一家。「お風呂が毎日入れて助かっている。ここに来るまでお風呂に入れなかった」と喜んでします。心配は放射能による汚染。「いわきの市長はテレビで大丈夫だと言っているけど、本当はどうなんだろう。家に帰れば一番いいのだけど」と心配していました。

避難所の人たちに、あったかいご飯とトン汁の差し入れ。小規模多機能施設「ひまわり」が大奮闘

あたたかいものが食べられない・・・避難所の人たちから聞いた平和支部の支部長さんは、直ちに、自分が勤めている介護施設「ひまわり」や平和台のIさんに連絡。あたたかいご飯とトン汁の手配をしました。「ひまわり」では、三機の炊飯器でご飯を、トン汁も二鍋調理し、Iさんからトン汁一鍋が届けられました。

大変な思いをして避難してきた人たちへの、励ましになっています。



避難所に責任を持つるのは市ですが、昼は指定管理者の管理人(臨時職員)1人だけ。夜は、市職員が交代で配置されています。

避難所の改善について、週明けにも市に要請する予定です。

看護学校の生徒が救援募金活動

被災地への救援募金活動が広がっています。15日には、東葛看護学校の生徒たちがイトーヨーカドー前で白衣の募金活動をおこない、3時間で10万円を超える募金が集まりました。16日にはビバホーム前でもやっています。

19日(土)南流山駅では、いぬい市議を先頭に8名が募金活動をおこない、2万1千円の募金が集まりました。赤旗記者が取材しました。

●震災にかかわる行政の窓口は

流山市東日本大震災相談センター

7158-1111 市役所

●救援活動やお困り事など何でもお寄せください

日本共産党流山市震災対策本部

いぬい紳一郎事務所 7157-6140

小田桐たかし事務所 7154-8253

徳増きよ子事務所 7144-1753

植田和子事務所 7154-0288